

第2章

計画策定の背景

1 スポーツの意義

スポーツは、私たちの「こころ」と「からだ」の健全な発達を促し、人生をより充実したものとするとともに、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成に寄与する世界共通の人類の文化の一つです。

また、スポーツは次のように多様な意義を有しており、少子超高齢社会の到来など社会経済情勢の変化から生じる様々な課題に対し、スポーツを効果的に活用していくことが、強く求められています。

(1) 個人的な意義

スポーツは、体を動かすという人間の本源的な欲求に応え、爽快感や達成感、他者との連帯感などの精神的充足や楽しさ、喜びをもたらし、私たちの人生をより豊かなものにします。心身の成長の過程にある子どもにとっては、スポーツを通じて、フェアプレイ精神が培われ、他人に対する思いやりなど豊かな人間性を育むことができます。高齢者にとっては、健康寿命を延伸し、生きがいのある人生を送ることができます。障害者にとっては、身体機能の回復はもとより、社会参加及び相互理解の促進にも繋がります。

(2) 社会的な意義

スポーツは、性別や年齢、障害の有無に関わらず、また言語や生活習慣の違いを超え、互いを認め、理解し合うことのできる普遍的で世界共通の文化の一つです。

スポーツを通じた交流は、地域の一体感や活力を醸成し、人間関係の希薄化などを抱える地域社会の再生に繋がります。また、スポーツの国際交流は、世界の人々との相互理解を促進し、国際的な友好や親善に資することになります。

さらに、国際競技大会などでの日本人選手の活躍は、多くの人々に夢や感動を与え、スポーツへの関心を高めるだけでなく、社会全体の活力に繋がります。

(3) 経済的な意義

スポーツの推進は、スポーツ産業の広がりと共に伴う雇用の創出などの経済的な効果をもたらします。また、スポーツイベントの開催は、観戦者による地元経済の活性化などの経済的波及効果が期待されます。

また、私たちの生活にスポーツが浸透することで、健康の維持・増進が図られ、医療費などの社会保障費の増大を抑制する効果なども期待されます。

2 社会状況の変化と課題

(1) スポーツに関する国の動向

- ・平成22年（2010年）にスポーツを国家戦略とする「スポーツ立国戦略」が策定され、この中で、「する人、観る人、支える（育てる）人の重視」という基本的な考え方が示されました。
- ・平成24年（2012年）に策定された「スポーツ基本計画」の中では、具体的な数値目標として「成人の週1回以上のスポーツ実施率65%程度」が示されました。
- ・平成27年（2015年）10月には「スポーツ庁」が設置され、これまで複数の府省庁で行っていたスポーツ関連業務や権限が一元化されました。
- ・これらを踏まえ、本市においてもスポーツを「する、観る、支える（育てる）」の3つの基本的視点と、多様な交流を意味する「ふれあう」という視点からスポーツの推進を図っていく必要があります。

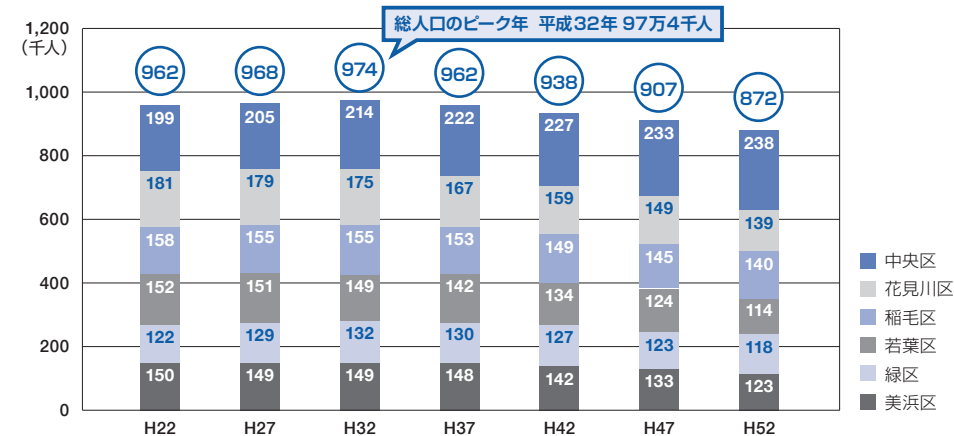
(2) 東京オリンピック・パラリンピックの対応

- ・2020年の東京オリンピック競技大会では、レスリング、フェンシング、テコンドーの3競技が、パラリンピック競技大会では、車いすフェンシング、テコンドー、ゴールボール、シッティングバレーボールの4競技が幕張メッセで開催されることが決まりました。
- ・東京オリンピック・パラリンピックが本市で開催されることは、スポーツへの意識・関心を高めるだけでなく、世界のトップアスリートを間近で観る絶好の機会であり、ひいてはスポーツを通じた国際交流にもつながるなど、本市のスポーツ推進に大きく寄与するものです。
- ・これらのことから、オリンピック・パラリンピックの競技会場都市として、開催後にもつながる受入態勢の構築が必要です。

(3) 人口減少社会への対応

- ・日本の総人口は、平成17年（2005年）に戦後初の減少となった後は再び増加し、平成19年（2007年）～平成22年（2010年）の間、1億2800万人前後とほぼ横ばいで推移しました。しかし、平成23年（2011年）には26万人の減少となり、その後も減少が続いています。
- ・本市においては、当面の間、総人口は増加し、本計画の中間年である平成32年（2020年）に97万4千人に達した後、減少する見通しです。（図表1）
- ・人口減少を少しでも緩やかで年代構成のバランスのとれた魅力的で活力ある社会を築くために、スポーツを通じた都市の魅力づくりが必要です。

図表1 千葉市の総人口の見通し



資料：千葉市の将来人口推計の見直しについて（平成26年）

(4) 少子超高齢社会への対応

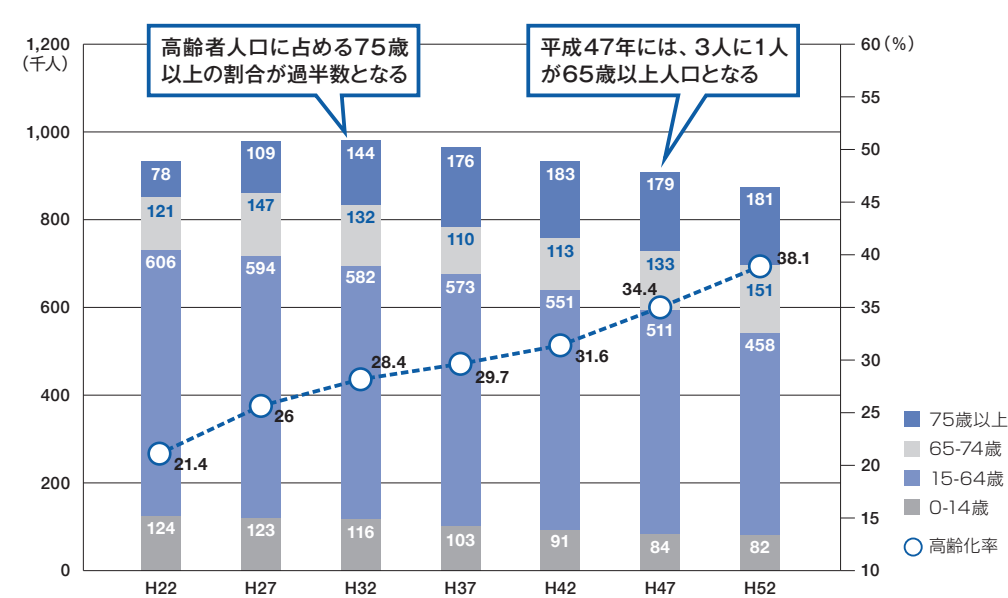
ア 少子化社会

- ・人口構造において、15歳未満の人口は減少が続き、平成27（2015）年に12.7％、平成37（2025）年には10.7％に減少することが予想されます。
- ・少子化は、小学生・中学生の体育・運動部活動に影響します。そのため、中学校運動部活動複数校合同実施等の取組みが重要になってきています。

イ 超高齢社会

- ・65歳以上の人口比率が平成27（2015）年に26.0％、平成37（2025）年には29.7％に達する見通しです（図表2）。
- ・健康寿命の延伸にスポーツ活動は不可欠です。

図表2 年齢区分別人口



資料：千葉市の将来人口推計の見直しについて（平成26年）

(5) ライフスタイルの多様化への対応

- ・インターネットの普及により、地球規模の情報発信・交換が可能となり、経済・文化をはじめとする多様な分野でグローバル化が進展したことで、生活が豊かになった反面、人や地域とのつながりが希薄化しています。
- ・また、運動不足などに伴う生活習慣病の増大、複雑多様化する現代社会におけるストレスなどによる健康への影響も懸念されています。
- ・こうした中、地域社会の活性化やストレス・生活習慣病の予防・改善対策として、スポーツ活動は非常に有効です。

3 本市のスポーツ活動の現状と課題

(1) 本市の特性

ア ゆかりのチーム

本市は千葉ロッテマリーンズやジェフユナイテッド市原・千葉をはじめ、数多くのトップスポーツチームが活動しています。

【表の見方：①チーム名 ②競技種目 ③活動拠点等 ④市民の認知度（平成26年調査時）】

 ① 千葉ロッテマリーンズ ② 野球 ③ QVC マリンフィールド ④ 97.0%	 ① ジェフユナイテッド市原・千葉 ② サッカー ③ フクダ電子アリーナ ④ 85.5%
 ① 千葉ジェッツ ② バスケット ③ 船橋アリーナ ④ 17.8%	 ① オービックシーガルズ ② アメリカンフットボール ③ オービック習志野グラウンド ④ 7.1%
 ① クボタスピアーズ ② ラグビー ③ クボタ京葉工場敷地内 ④ 未集計	 ① バルドラール浦安フットボールサ ② フットサル ③ 浦安市総合体育館 ④ 2.5%
 ① 富士通陸上部 ② 陸上競技 ③ 千葉市内 ④ 11.9%	 ① 稲毛インターナショナル トライアスロンクラブ ② トライアスロン ③ 千葉市内 ④ 7.4%
 ① JFE 東日本硬式野球部 ② 硬式野球 ③ 千葉市内 ④ 17.8%	 ① イオン新体操クラブ ② 新体操 ③ 千葉市内 ④ 21.8%
 ① 千葉ゼルバ ② バレーボール ③ 千葉市内 ④ 1.5%	 ① 千葉ホークス ② 車椅子バスケットボール ③ 千葉市内 ④ 5.3%
 ① BLAST ② ウィルチェアラグビー ③ 千葉市内 ④ 0.8%	 ① RIZE ② ウィルチェアラグビー ③ 千葉市内 ④ 0.5%

イ 障害者スポーツ

本市では全国規模以上の車椅子スポーツ大会が開催されています。（平成27年度実績）

大会名	ジャパンパラウィルチェアラグビー競技大会
開催日	5月22日（金）～24日（日）
競技種目	ウィルチェアラグビー
大会会場	千葉ポートアリーナ
参加国	日本、イギリス、ニュージーランド、デンマーク
一言メモ	ウィルチェアラグビーの国際競技力向上を目的として開催するもので、毎年強豪国が集まります。
主催者	公益財団法人 日本障がい者スポーツ協会日本パラリンピック委員会 一般社団法人 日本ウィルチェアラグビー連盟



大会名	第5回 長谷川良信記念・千葉市長杯争奪車椅子バスケットボール全国選抜大会
開催日	3月5日（土）、6日（日）
競技種目	車椅子バスケットボール
大会会場	千葉ポートアリーナ
チーム数	6チーム
一言メモ	企画、準備、協賛広告依頼も含めすべて学生達の手によって運営される全国唯一の大会です。
主催者	千葉市、淑徳大学、公益財団法人千葉市スポーツ振興財団



ウ 大規模イベント

本市では全国的な競技大会が開催されています。(平成27年度実績)



大会名 2015 幕張チャレンジトライアスロンフェスタ

開催日 6月6日(土)・7日(日)

場 所 QVC マリンフィールド周辺

参加者 約1,000人

一言メモ トライアスロンは鉄人レースとも呼ばれていますが、本大会はトップトライアスリートから小学生対象のものまで様々なレースが行われ、参加しやすい大会となっています。



大会名 第4回 JBCF 幕張クリテリウム

開催日 11月7日(土)

場 所 県立幕張海浜公園内

参加者 235人

一言メモ 幕張メッセで開催される日本最大のスポーツ自転車フェスティバルであるサイクルモードと合わせて開催される自転車競技のロードレースです。



大会名 第40回 サンスポ千葉マリンマラソン

開催日 1月24日(日)

場 所 QVC マリンフィールド～稲毛海浜公園等を通るシーサイドランニングコース

参加者 約18,000人

一言メモ 本大会は千葉市制850年を記念して昭和51年から開催されている大会です。



大会名 千葉クロスカントリー大会

開催日 2月14日(日)

場 所 昭和の森

観客数 約3,000人

一言メモ 本大会は日本の都市公園100選に選定されている昭和の森で行われる国内2大クロスカントリー大会の一つです。

エ 市内の主なスポーツ施設

本市では千葉ポートアリーナをはじめ、大型スポーツ施設が数多くあります。(図表3)これらの施設は、市民がスポーツ・レクリエーションを「する」、「観る」、「支える・ふれあう」場の中心となっています。



オ スポーツ関係団体

本市の主なスポーツ関係団体として次の団体があり、様々な活動を通じて本市のスポーツ振興に寄与しています。

公益財団法人 千葉市スポーツ振興財団

市民の誰もが「いつでも、どこでも、いつまでも」スポーツ・レクリエーションに親しめる環境を提供し、スポーツ活動の支援や施設の管理運営業務等の事業を一体的に実施しています。

また、スポーツに身近に接する機会を提供し、スポーツを通じた地域コミュニティの活性化・交流機能の向上を図っています。

千葉市体育協会

「千葉市におけるスポーツ技術の諸団体を統括し、かつこれを代表する団体であって、団体相互の親睦発展と市民体育の振興を図ること。」を目的とし、39協会、登録人員約60,000人により組織されています。市民の健康増進や体力向上を目指した幅広い活動を積極的に行っています。

千葉市スポーツ少年団

日本スポーツ少年団、千葉県スポーツ少年団の下部団体です。毎年、各種大会や研修会、海外との交流事業等へ多くの団員、指導者が参加するなど、幅広く活動しています。現在67団体、団員約1,300人、指導者約300人が登録しています。

千葉市少年スポーツ連盟

昭和52年に発足した千葉市独自の組織です。千葉市における少年スポーツ競技の諸団体を統括し、かつこれを代表する団体として、相互の親睦発展と少年スポーツの振興を目的として活動しています。現在13種目、連盟員約10,000人により組織されています。

千葉市スポーツ振興会

市内77地区にスポーツ（社会体育）振興会が組織されており、地区のスポーツ・レクリエーション大会等の行事を通して、地区住民の連帯と協調を高めるとともに、健康づくり・仲間づくりに貢献しています。

千葉市スポーツ推進委員

スポーツ推進委員は、スポーツ基本法により「スポーツ推進のための事業の実施に係る連絡調整並びに住民に対するスポーツの実技の指導その他スポーツに関する指導及び助言を行う」と定められています。

千葉市では約540名のスポーツ推進委員を委嘱しており、地域のスポーツ・レクリエーションを推進しています。また、家庭バレーボール大会や地区体育祭において企画運営をしています。



千葉市スポーツ振興会（行事風景）



講習会

(2) スポーツ振興計画の取り組み成果

平成23年に策定した千葉市スポーツ振興計画では、「元気でいきいきと暮らし、ふれあいを深め、夢のあふれるスポーツ都市の実現」を目指し、様々な施策に取り組んできました。

ア トップスポーツイベントの開催・誘致

大会名	三菱電機 2015 IWBF アジアオセアニアチャンピオンシップ千葉
開催日	平成27年10月10日（土）～17日（土）
場 所	千葉ポートアリーナ
競技種目	車椅子バスケットボール



photo by フォト・サービスワン（JWBF提供）



photo by フォト・サービスワン（JWBF提供）

大会名	三菱商事 2015 IWRF アジア・オセアニアチャンピオンシップ
開催日	平成27年10月29日（木）～11月1日（日）
場 所	千葉ポートアリーナ
競技種目	ウィルチェアーラグビー



イ 市民参加型スポーツイベントの実施

毎年多くの市民が参加して楽しめるスポーツ・レクリエーションイベントを開催しています。

イベント	参加者数 (H26年度実績)
昭和の森市民クロスカントリー大会	743人
スポーツ・レクリエーション祭	4,362人
家庭バレーボール大会	1,924人
ジュニアスポーツ大会	2,074人
市民体育祭兼地区体育祭	64,828人
サンスポ千葉マリンマラソン	18,000人



スポーツ・レクリエーション祭



家庭バレーボール大会



ジュニアスポーツ大会



市民体育祭兼地区体育祭

ウ スポーツ環境の充実

より多くの市民が手軽にスポーツ・レクリエーションに親しむことができるよう、次のとおりスポーツ環境の充実を図りました。

幕張稲毛シーサイドランニングコースの整備

本市の特色のひとつである豊かな自然と水辺を活かしたスポーツ・レクリエーションを推進し、市民のスポーツ振興や健康増進を図ることを目的に美浜地区の海沿いに、心地よい潮風を感じながら幕張新都心の景観を望むことができる快適なランニングコースを設定しました(図表4)。



千葉市プチ体操の普及啓発

スポーツ実施率の向上を図るため、誰もが気軽に体操ができるよう、生活の中でちょっとした時間を活用してできる「プチ体操」を考案し、その普及啓発を図りました。

■ プチ体操について

「千葉市プチ体操」には、以下の4つの体操があります。

○ めざめ体操 ○ ながら・あいま体操 (1) ○ ながら・あいま体操 (2) ○ リラックス体操

(椅子に座って) (床に座って・立位で)

■ 普及啓発の方法

4種類の概要版(パンフレット)を区役所などの公共施設や、市内のスポーツ施設にて配布したほか、スポーツ教室やスポーツコーチャーを通じて普及啓発を図りました。

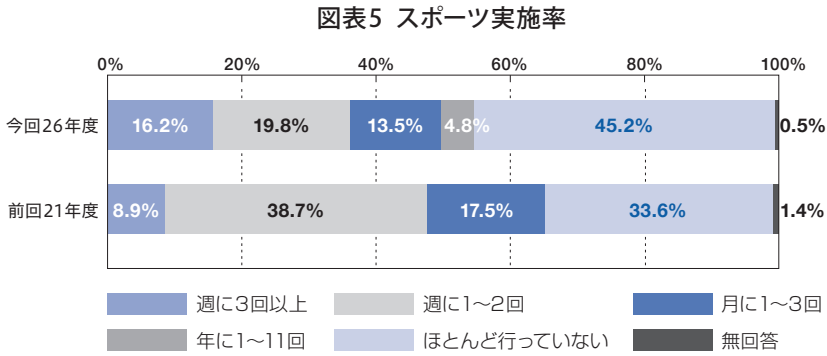
(3) 市民のスポーツ活動の現状と課題

本計画の策定にあたり、平成26年度に「千葉市スポーツ推進計画策定に関わる市民意識調査」を実施し、「する」「観る」「支える・ふれあう」の3つの視点で、主に前回調査時（平成21年度）との比較分析をしました。

	① 市民	② 児童生徒		
		小学生	中学生	高校生
調査対象地域	千葉市全域	千葉市全域		
調査対象	市内在住の18歳以上79歳までの男女無作為抽出	各区の3校の5年生1クラス	各区の3校の2年生1クラス	市立高校2年生
配布件数	1,200件	18校（各1クラス）	18校（各1クラス）	2校（全生徒）
配布回収方法	郵送配布・郵送回収	協力依頼した学校において配布・回収		
調査期間	平成26年9月	平成26年9月	平成26年9月	平成26年9月
回収数 回収率	394件 32.8%	587件 100%	507件 100%	519件 100%

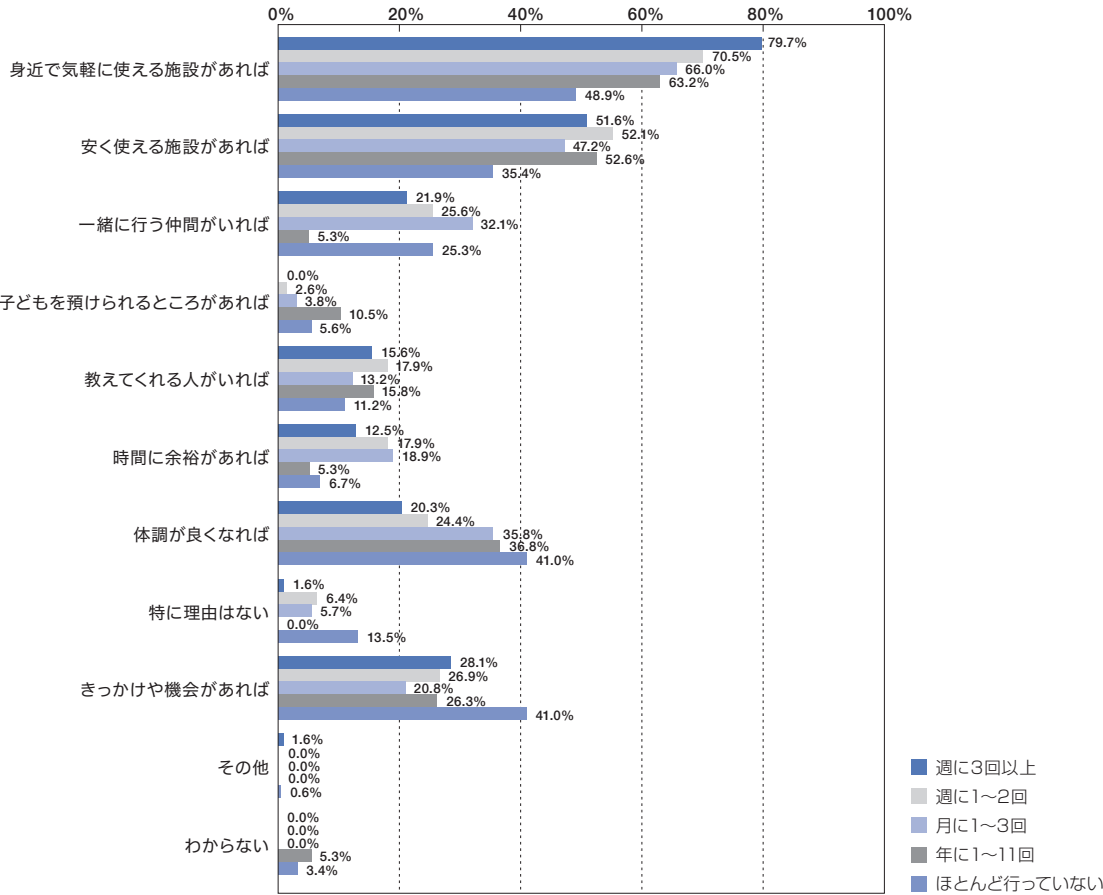
ア 「する」スポーツについて

- ・週に1回以上の実施率は36%で、前回調査時から11.6%減少しました。また、ほとんど行っていない人の割合は45.2%で、前回調査時から11.6%増加しています（図表5）。



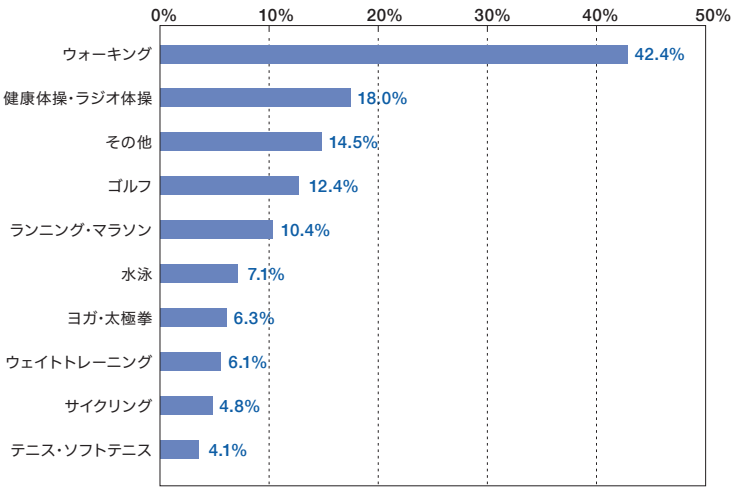
- ・より多く行うためには、実施頻度が上がるにしたがって「身近で気軽に使える施設があれば」「安く使える施設があれば」が上昇傾向にあります。また、「ほとんど行っていない」と回答した方では、「きっかけや機会があれば」が行っている方に比べ多くなっています（図表6）。

図表6 スポーツ・レクリエーションを今より行うための条件

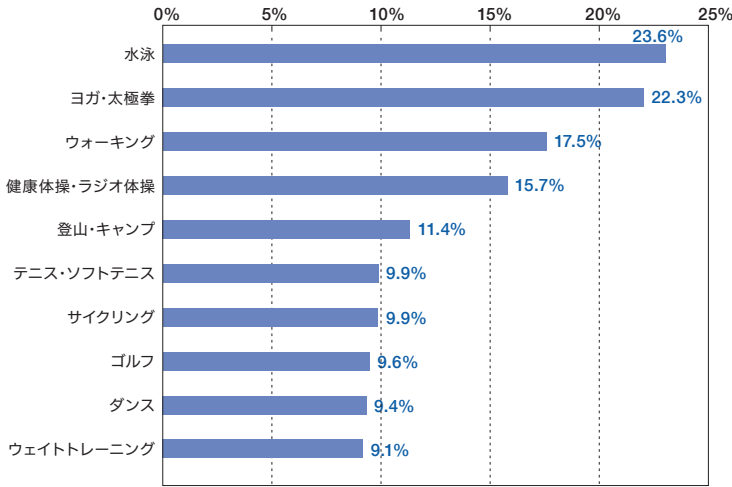


- ・現在実施しているスポーツでは「ウォーキング」が一番多く、次いで「健康体操・ラジオ体操」となっています（図表7）が、今後行ってみたいスポーツとしては、「水泳」や「ヨガ・太極拳」が多くなっています。（図表8）
- ・個人で実施可能な種目にニーズが高まっており、野球やサッカーなどの団体種目のニーズが減少傾向にあります。

図表7 現在実施している種目（上位10種目）



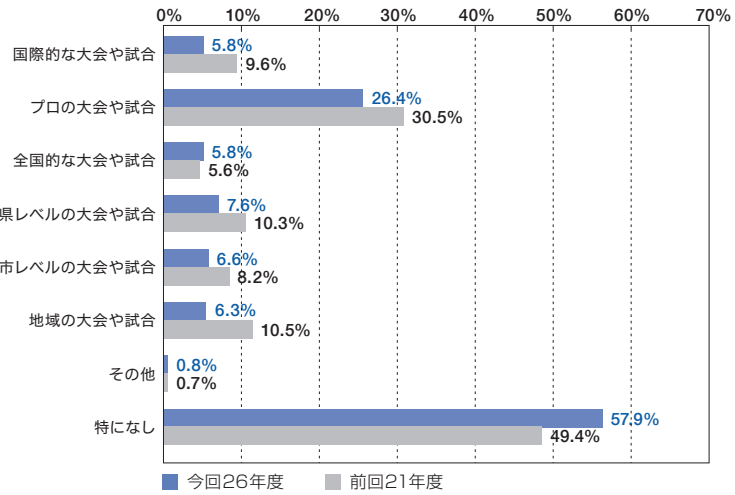
図表8 今後実施してみたい種目（上位10種目）



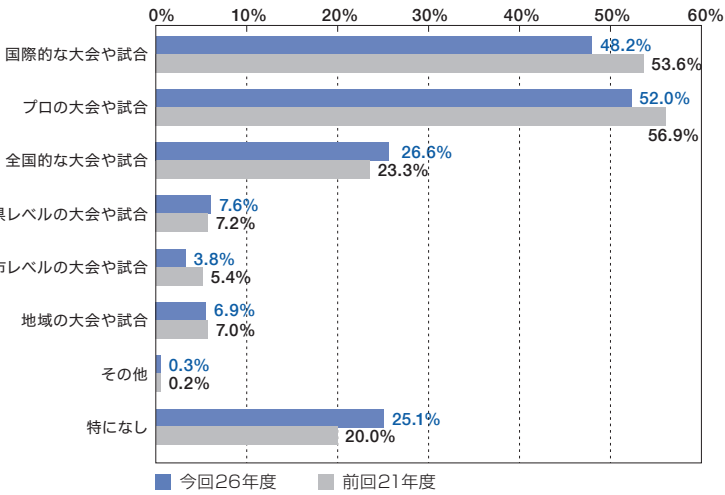
イ 「観る」スポーツについて

- ・年1回以上スポーツを実際に観戦する割合は42.1％で、前回調査時から8.5％減少しました。実際に観戦した試合及び今後観戦したい試合で一番多かったのは「プロの大会や試合」でした（図表9）。
- ・観戦する割合と同様に、観戦意向についてもほとんどの項目で減少もしくは横ばいとなりました（図表10）。

図表9 観戦率



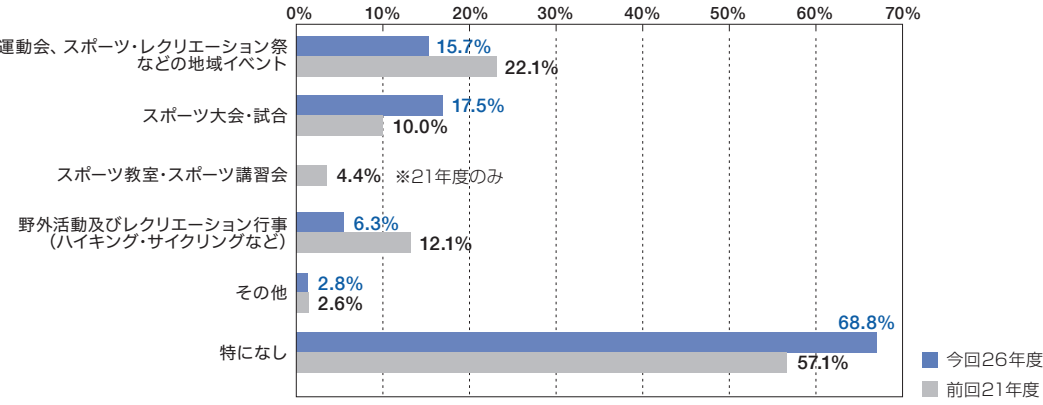
図表10 観戦傾向



ウ 「支える・ふれあう」スポーツについて

- ・年1回以上のスポーツ行事への参加率は31.2％で、前回調査時から11.7％減少しました（図表11）。

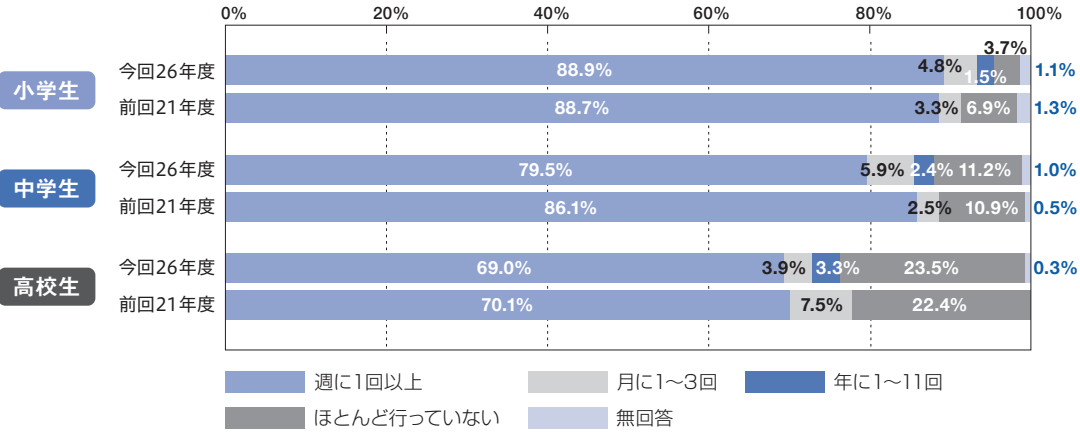
図表11 スポーツ行事への参加率



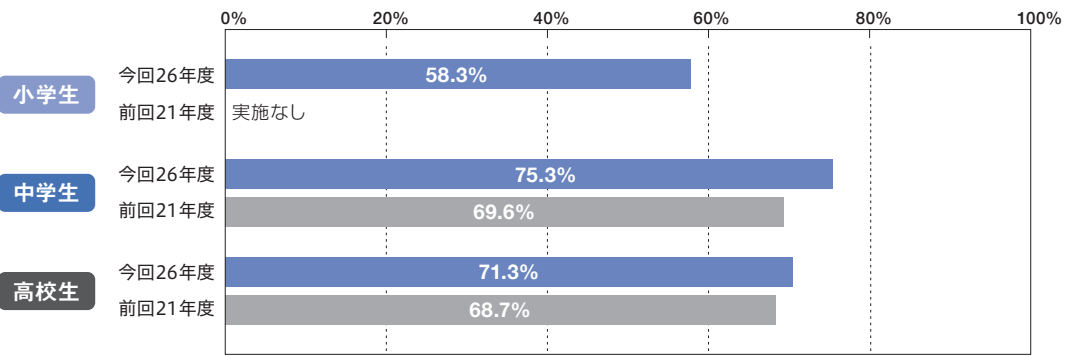
エ 児童生徒について

- ・小学生の週に1回以上スポーツを行う割合は前回より微増となり、ほとんどしないと回答した割合は約3％少なくなりましたが、中・高校生の週に1回以上スポーツを行う割合は前回より減少しており、ほとんどしない割合も微増となりました（図表12）。
- ・中・高校生とも、この1年間は実際に大会を観戦したと回答した割合は前回より増加しました（図表13）。

図表12 スポーツ実施率（児童生徒）



図表13 大会観戦率（児童生徒）



(4) 小学生・中学生の体力について

- ・全国的な小学生・中学生の体力について、文部科学省が発表した「平成25年度体力・運動能力調査報告書」では、体力水準が高かった昭和60年頃と比較すると、中学生男子の50m走、ハンドボール投げ及び高校生男子の50m走を除き、依然低い水準になっています。
- ・新体力テスト施行後の16年間の合計点の年次推移をみると、ほとんどの年代で緩やかな向上傾向を示しています。
- ・本市の小学生・中学生の体力は、全国的に高いレベルにあります。(図表14)

図表14 本市の小学生・中学生の新体力テストの全国平均との比較結果（平成26年度）

※全国平均（平成26年度）と比較して ○：上回っている、●：下回っている

小学生		握力	上体起こし	直座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール
1年	男子	●	○	○	○	○	○	○	○
	女子	○	○	○	○	○	○	○	○
2年	男子	○	○	○	○	○	○	○	○
	女子	○	○	○	○	○	○	○	○
3年	男子	○	○	○	○	○	○	○	○
	女子	○	○	○	○	●	○	○	○
4年	男子	○	○	○	○	○	○	○	○
	女子	○	○	○	○	●	○	○	○
5年	男子	○	○	○	○	○	○	○	○
	女子	○	○	○	○	○	○	○	○
6年	男子	○	○	○	○	○	○	○	●
	女子	○	○	○	○	○	○	○	○

中学生		握力	上体起こし	直座体前屈	反復横とび	シャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール
1年	男子	●	●	○	●	●	○	●	○
	女子	●	○	○	○	●	○	○	○
2年	男子	●	○	○	○	●	○	○	○
	女子	●	○	○	○	○	○	○	○
3年	男子	●	○	○	○	●	○	●	○
	女子	○	○	○	○	●	○	○	○